2016,12,4　　自然・歴史探訪　　**天ヶ森トレッキング記**

今日は花折峠から天ヶ森に登ります。当倶楽部では、初めてのコースです。ナメコも沢山あり、みなさんアチコチ収穫体験・・笑顔がこぼれそう・・。ほぼ予定通りのコースタイムで下山。小出石に下山してから小雨が降り出しました。今日も自然に感謝。出会いに感謝の一日でした。

歴史：花折峠　は、分水嶺になっており、高野川は南へ、安曇川は北へ流れる。比叡山と比良山系のちょうど中間に位置する標高 591m にある峠。比叡山の回峰行者たちが、比叡山の奥の院とも言うべき葛川の明王院に籠る際、この峠でしきみ（仏に供える花）を手折ったことからこの名がある。室町時代の将軍・足利義尚の母、日野富子もこの峠を越えた。

若狭街道・鯖街道のルート

(若狭湾)－小浜[おばま]－遠敷[おにゅう]－熊川[くまがわ]宿－＜水坂[みさか]峠＞－保坂[ほうざか]－朽木[くつき]宿－葛川[かつらがわ]－**＜花折［はなおれ］峠＞**－＜途中越＞－大原－八瀬－出町柳－大原口(京都)

若狭街道・鯖街道は全長約 71km。上記以外にも若狭と京都を結ぶ鯖街道ルートは数多い。

鯖街道：若狭街道は海を持たない京都の人々が鮮魚を得るために不可欠な道であった。若狭から運ばれた物資の中で特に*鯖*が有名で**鯖街道**の別名がある。鯖のほか、アマダイ(グジ)、イカ、カレイも運ばれた。

塩鯖と鯖街道　※鯖の腐敗を防ぐため塩でしめて、丸一日かけて鯖街道を運んだ。早朝、小浜を出発し、昼夜歩き続け翌朝ようやく京都に到着。着く頃には、丁度よい味加減になっていた。**※文化の道**：若狭街道・鯖街道は古代、大陸の表玄関であった若狭から、大陸や朝鮮の文化が峠を越えて京都や奈良に伝えられた重要な道でもあった。また同時に、京都の文化もこの若狭街道・鯖街道を通じて小浜(別名*海のある奈良*)に伝わった。「*京は遠ても十八里*」。若狭の人々にとって、京都は身近な存在だった。

若狭街道・鯖街道は西近江路の脇街道　：琵琶湖の西岸に沿って大津と日本海(敦賀)を結ぶのが西近江路。この古い歴史を持つ西近江路の脇街道として若狭街道・鯖街道は戦略的にも重要だった。多くの武将たちが、この街道を駆け抜けた。若狭街道・鯖街道は朝倉攻めの際、**織田信長**も退路として利用した(1570)。

鯖街道最短ルート針畑越え　：　遠敷[おにゅう]－下根来[ねごり]－上根来－＜根来坂峠＞－小入谷[おにゅうだに]－久多－花背－鞍馬

◆トレッキングの様子

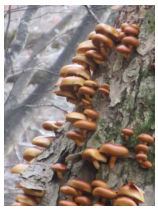
花折峠

落ち葉踏みしめサクサクと

なめこ①

なめこ②

みなさん、笑顔いっぱい


なめこ　③

休憩

ミタニ峠到着

ミヤニ峠で昼食

天ヶ森に到着